

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1 市民会館・公民館施設概要

会館は多様な文化的活動に対応しつつ、教育機関としての機能も果していく施設として、昭和52年6月に開館した。

敷地面積 4,937.07m² 延床面積 6,771.253m²

鉄筋コンクリート地下1階地上3階建

また、武蔵野台地区、熊川地区に社会教育活動の拠点として、地域のさまざまな文化創造の場として公民館分館（松林分館、白梅分館）がある。

(1) 松林分館（武蔵野台地区）が昭和54年5月に開館した。

敷地面積 1,104.98m² 延床面積 564.30m²

鉄筋コンクリート 地上2階建

(2) 白梅分館（熊川地区）が昭和55年5月に開館した。

敷地面積 2,158.03m² 延床面積 570.59m²

鉄筋コンクリート 地上2階建

これらの施設、設備、職員を通じて

- (1) 市民の出会いの場（広場）
 - (2) 集団活動のよりどころ
 - (3) 人間（市民）としての向上の場（市民の大学）
 - (4) 芸術、文化、娯楽の鑑賞と創造（劇場、音楽堂）
- の役割を果たしている。

2 市民会館・公民館の利用状況

施設名			月別		4			5			6			7			8			9		
			区分		有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数	有 料	減 免	総 数
市 民 会 館	ホ ー ル	大ホー ル	12		12	23		23	28		28	24		24	16		16	32		32		
		小ホー ル	24		24	20		20	23		23	49		49	20		20	24		24		
		小 計	36		36	43		43	51		51	73		73	36		36	56		56		
市 民 会 館	集 会 室 等	リハーサル室	3	8	11	9	9	18	3	12	15	9	10	19	8	8	16	0	20	20		
		第1集会室	5	26	31	7	17	24	2	21	23	10	25	35	8	9	17	4	37	41		
		第2集会室	9	35	44	10	32	42	8	41	49	6	39	45	13	27	40	11	45	56		
		第3集会室	7	33	40	3	32	35	1	53	54	3	46	49	3	36	39	4	43	47		
		第4集会室	6	31	37	7	25	32	7	42	49	8	35	43	6	22	28	9	34	43		
		第5集会室	11	31	42	4	30	34	2	40	42	8	37	45	2	26	28	9	32	41		
		第6集会室	2	29	31	9	23	32	8	24	32	8	31	39	3	18	21	5	26	31		
		第7集会室	0	26	26	6	22	28	3	25	28	7	31	38	3	18	21	2	24	26		
		第8集会室	13	5	18	5	2	7	6	9	15	11	11	22	0	4	4	3	13	16		
		展 示 室	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	2	2	0	12	12	0	0	0		
		小 計	56	224	280	60	192	252	40	272	312	70	267	337	46	180	226	47	274	321		
		計	92	224	316	103	192	295	91	272	363	143	267	410	82	180	262	103	274	377		
公 民 館	調 理 室 美 術 室 音 楽 室 視 聴 覚 室 児 童 室	調 理 室	0	26	26	0	18	18	2	12	14	2	20	22	2	22	24	4	18	22		
		美 術 室	0	15	15	0	13	13	0	16	16	0	23	23	0	13	13	0	31	31		
		音 楽 室	1	21	22	2	22	24	1	30	31	2	32	34	3	27	30	4	33	37		
		視 聴 覚 室	0	32	32	0	27	27	0	35	35	0	30	30	0	27	27	0	29	29		
		児 童 室	1	14	15	2	15	17	0	25	25	2	18	20	0	5	5	2	15	17		
		計	2	108	110	4	95	99	3	118	121	6	123	129	5	94	99	10	126	136		
合 計			94	332	426	107	287	394	94	390	484	149	390	539	87	274	361	113	400	513		

1 0			1 1			1 2			1			2			3			合 計		
有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総
料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数
21		21	51		51	19		19	12		12	20		20	34		34	292		292
21		21	29		29	17		17	5		5	20		20	36		36	288		288
42		42	80		80	36		36	17		17	40		40	70		70	580		580
5	11	16	3	26	29	0	12	12	0	12	12	5	13	18	9	10	19	54	151	205
11	30	41	4	40	44	0	29	29	3	19	22	14	28	42	6	36	42	74	317	391
7	41	48	3	48	51	0	38	38	4	33	37	10	40	50	7	47	54	88	466	554
2	59	61	3	45	48	3	44	47	1	42	43	6	44	50	6	46	52	42	523	565
8	35	43	8	32	40	4	37	41	4	30	34	10	47	57	7	50	57	84	420	504
3	34	37	3	40	43	2	37	39	4	30	34	9	36	45	6	46	52	63	419	482
4	31	35	2	42	44	1	40	41	0	37	37	9	41	50	6	53	59	57	395	452
0	29	29	2	37	39	1	34	35	0	35	35	7	41	48	4	45	49	35	367	402
8	6	14	6	19	25	3	14	17	7	10	17	27	9	36	9	21	30	98	123	221
0	12	12	0	14	14	0	0	0	0	2	2	0	0	0	15	0	15	15	47	62
48	288	336	34	343	377	14	285	299	23	250	273	97	299	396	75	354	429	610	3,228	3,838
90	288	378	114	343	457	50	285	335	40	250	290	137	299	436	145	354	499	1,190	3,228	4,418
2	22	24	5	26	31	3	16	19	3	8	11	3	18	21	1	26	27	27	232	259
0	42	42	0	28	28	3	16	19	1	9	10	3	24	27	1	29	30	8	259	267
1	41	42	0	31	31	0	27	27	0	28	28	0	30	30	0	36	36	14	358	372
0	35	35	2	30	32	0	12	12	1	20	21	1	27	28	1	25	26	5	329	334
0	18	18	2	17	19	0	25	25	0	22	22	3	24	27	0	23	23	12	221	233
3	158	161	9	132	141	6	96	102	5	87	92	10	123	133	3	139	142	66	1,399	1,465
93	446	539	123	475	598	56	381	437	45	337	382	147	422	569	148	493	641	1,256	4,627	5,883

昭和59年度 松林会館利用状況

区分		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
主 催 事 業	件数		5	35	33	33	23	34	53	25	13	15	20	40	329
	人員		103	1,914	410	550	417	456	2,214	371	217	289	418	642	8,001
市 民 の 社会教育活動	件数		97	87	96	98	38	92	89	111	90	69	91	104	1,062
	人員		1,122	1,052	1,122	1,314	465	970	993	1,324	1,208	783	1,106	1,085	12,544
公 共 的 団 体	件数		11	6	9	51	137	6	4	5	6	9	7	5	256
	人員		245	60	132	1,238	3,600	82	24	33	80	275	51	35	5,855
政治・宗教団体	件数		6	4	4	2	0	4	3	2	3	2	3	4	37
	人員		282	130	260	130	0	260	195	130	195	130	195	260	2,167
企 業	件数		2	1	0	0	1	3	0	1	0	1	0	0	9
	人員		60	12	0	0	9	126	0	15	0	45	0	0	267
そ の 他	件数		15	5	15	3	2	15	8	12	8	6	14	16	119
	人員		297	67	322	55	20	387	275	437	195	155	297	453	2,960
合 計	件数		136	138	157	187	201	154	157	156	120	102	135	169	1,812
	人員		2,109	3,235	2,246	3,287	4,511	2,281	3,701	2,310	1,895	1,677	2,067	2,475	31,794

白 梅 会 館 利 用 状 況

		59年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	60年 1 月	2 月	3 月	合 計
主 催 事 業	件数	4	19	32	21	5	27	31	18	1	2	14	18	192
	人員	54	1,206	562	327	117	373	470	667	45	23	322	253	4,419
住 民 の 社会教育活動	件数	111	105	132	122	109	120	121	141	133	110	141	158	1,503
	人員	1,819	1,464	1,963	1,843	1,642	1,551	1,798	2,052	2,048	1,583	2,048	2,298	22,109
公 共 的 団 体	件数	1	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	1	8
	人員	30	0	0	180	120	0	0	0	0	0	0	55	385
政治・宗教団体	件数	1	0	0	1	1	5	0	0	0	1	0	1	10
	人員	20	0	0	50	65	220	0	0	0	30	0	35	420
企 業	件数	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	6
	人員	0	0	8	8	0	11	11	11	0	0	0	9	58
そ の 他	件数	0	1	1	7	5	2	2	1	3	2	5	3	32
	人員	0	25	4	106	51	31	6	12	60	4	45	95	439
合 計	件数	117	125	166	156	122	155	155	161	137	115	160	182	1,751
	人員	1,923	2,695	2,537	2,514	1,995	2,186	2,285	2,742	2,153	1,640	2,415	2,745	27,830

3 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、本市の場合、昭和56年10月から社会教育委員との兼任から独立し、任期2年、定数10名で構成されている。

本年度の審議内容は次のとおりである。

昭和59年7月5日(木) 午後7時30分 公民館

- ① 講師派遣制度について

昭和59年8月29日(木) 午後7時30分 公民館

- ① 講師派遣制度について

昭和59年9月29日(土) 午後6時30分 公民館

- ① 昭和59年度上半期主催事業実施状況について

昭和59年10月8日(月) 午後7時30分 公民館

- ① 委嘱状の交付について
- ② 正副委員長の互選について

昭和59年11月8日(木) 午後7時30分 公民館

- ① 昭和59年度上半期主催事業実施状況について

昭和59年12月5日(木) 午後6時30分 公民館

- ① 昭和60年度公民館事業計画について

昭和60年3月1日(金) 午後7時30分 公民館

- ① 昭和60年度公民館管理運営計画案について

4 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、個人の相談に応じ、職員が必要な助言、指導、援助を行った。

分館を除き、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これら社会教育活動をする市民(団体)の相談にのり、必要な援助をするため、職員が1名残る体制をとっている。(午後5時から10時まで)

(2) 教材、教具等の利用

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 1回 (市民音楽祭)

小ホール 2回 (福生混声コーラス、福生市民コーラス)

社会教育備品貸出し状況

内訳 \ 月	59年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	60年 1	2	3	計
利用団体	7	7	5	7	12	10	3	4	5	5	8	4	77
16ミリ映写機	5	5	5	5	10	11	3	5	2	4	7	3	65
8ミリ映写機						2					1		3
8ミリカメラ				1									1
スライド映写機						1	1	1		2			5
O H P				1					2				3
スクリーン		3	2	3	5	1			1		2	6	23
暗幕	1	1		1	3	1		1	1	2	2	2	15
空リール											2		2
テープレコーダー					1								1
トランシーバー											1		1
スポットライト	1								2				3
電源ドラムコード													0

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

月	59年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	60年 1	2	3	計
利用団体	3	3	10	立川社教会 館移転のため 休館		6	5	9	5	9	3	4	59
本数	9	5	14			10	10	13	11	17	6	8	103

月平均 5.9団体 10.3本

5 公民館主催事業

(1) 幼児

幼児室事業

おもに幼児期の前半にあたる子どもたちの成長、発達をはかる。集団での遊びを通し、社会性の基礎を養う場として実施した。

期 間 昭和59年6月1日(金)～11月1日(木) 1コース全15回×10コース

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者 (15人×8C+13人×1C+5人×1C)×15回=2,070人

	実施コース	幼 児 数					延参加数	保護者数
		コース人数	1 才	2 才	3 才	4 才		
1	本館月曜幼児室	15人	4人	4人	7人	0人	225人	13人
2	〃 水曜幼児室	15	2	12	0	1	225	15
3	〃 木曜幼児室	15	5	8	2	0	225	15
4	〃 金曜幼児室	15	5	6	4	0	225	15
5	〃 土曜幼児室	15	5	4	6	0	225	15
6	松林月曜幼児室	13	6	3	4	0	195	12
7	〃 土曜幼児室	5	4	0	1	0	75	4
8	白梅水曜幼児室	15	5	4	6	0	225	12
9	〃 木曜幼児室	15	8	1	6	0	225	16
10	〃 金曜幼児室	15	3	5	6	1	225	10

内 容

○主題 幼児が集団の中で、能動的にかかわることができるようにする。

幼児の自立心を育てる。

○方法 遊具による遊び(室内、戸外)

紙芝居や工作

集団遊び

} を通し、保母が専門的な力でひきだしていく。

総 括 子どもをあずけることを通して、母親が学んでいく場としての一側面をあわせもつ事業であったが、15回を終えてみて、あまり成果があらなかったように思う。今後再考する必要があると感じた。

(2) 少 年

たんけん教室

身近な自然（多摩川・近隣の丘陵地など）や文化財を見て歩き、私たちの生活と歴史的・社会的な関係を知る機会とした。

期 間 昭和59年4月28日出～昭和60年3月31日(日) 全17回

会 場 公民館、市内河原・公園、草花・滝山丘陵など

参加者 425人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
4. 28	オリエンテーション	説明、自己紹介など	岡田紀夫氏
5. 12	市内オリエンテーリング	市内でコンパスの使い方の練習	〃
6. 24	滝山オリエンテーリング	滝山 〃	〃
7. 14	キャンプ打合せ	キャンプ内容の説明	〃
7. 15	草花オリエンテーリング	草花でコンパスの使い方の練習	〃
7. 24	} たんけんキャンプ	} キャンプを通して、野外での共同・ 協力のちからを養う	〃
7. 25			〃
10. 10	滝山じねんじょ探し	滝山丘陵でクリやじねんじょ探し	〃
10. 20	奥多摩たんけんⅠ打合せ	秋の奥多摩へ行くための事前準備	〃
10. 28	奥多摩たんけんⅠ	秋の高畑倉山・倉岳山へ行く	〃
11. 25	滝山の二次林たんけん	身近な二次林の観察	〃
2. 2	奥多摩たんけんⅡ打合せ	冬の奥多摩へ行くための事前準備	〃
2. 3	奥多摩たんけんⅡ	冬の棒ノ折山へ行く	〃
3. 16	ファミリーハイキング打合せ	子どもたちによる企画	〃
3. 24	〃 下見	〃 下見	〃
3. 27	〃 資料作り	〃 資料作り	〃
3. 31	〃 本番	親や仲間とのハイキング	〃

夏休み自然教室

福生市内全域の緑の様子を全員で調べることにした。

期 間 昭和59年7月27日(金)～8月31日(金) 全15回

会 場 市内全域

参加者 315人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
7. 27	オリエンテーション	説明、自己紹介など	岡田紀夫氏 宮岡一雄氏 栗原 仁氏
7. 30	緑の分布調査	市内全域の緑の状況を調べる	
8. 1	〃	〃	
8. 3	〃	〃	
8. 6	〃	〃	
8. 8	〃	〃	
8. 10	〃	〃	
8. 14	〃	〃	
8. 20	} 24時間 キャンプ	市内で24時間の移りかわりを	
8. 21		キャンプを通して体験する	
8. 24	緑の分布調査	市内全域の緑の状況を調べる	
8. 27	〃	〃	
8. 29	緑の分布作り	緑の分布作り	
8. 30	〃	〃	
8. 31	〃	〃	

夏休み創作マンガ教室

マンガを創作することや人形劇の人形を作ることを通して、表現力を身につける機会とした。

期 間 昭和59年8月13日(月)～17日(金) 全4回

会 場 公民館

参加者 52人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
8. 13	マンガの描き方	マンガの描き方の説明	原嶋卓三氏
8. 15	マンガを利用しよう	マンガを利用したおもちゃ作り	〃
8. 16	〃	指人形の応用方法を知る	〃
8. 17	〃	紙人形などへの応用を知る	〃

英会話でクッキー作り

外国人との接触が多い福生市では、子どものころからの接触が多いほど不適應が少ないと考え、クッキー作りを通して交流の機会を作った。

期 間 昭和59年7月27日(金)～8月30日(木) 全10回

会 場 公民館調理室

参加者 160人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
7. 27	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介など	{ 高橋登志江氏 Mrs Seay氏
8. 2	クッキー作りの実際	オートミールクッキーの作成	
8. 6	"	ハンバーガーランチ e t c	"
8. 9	"	カッドン	"
8. 13	"	レモンパイ	"
8. 16	"	ギョウザ	"
8. 20	"	チーズケーキ	"
8. 23	"	マフィン、おまんじゅう	"
8. 27	"	タコス	"
8. 30	"	ブラウニー	"

サバイバル教室

生きることへの努力をさほど必要としない現代において、子ども自身が仲間と力をあわせ、生き抜く力を身につけることを目標に実施した。また、そのことを通して、ものごとをやりとげる苦しさや楽しさを経験し、あわせて、地域での異年齢の集団の形成の機会として実施した。

期 間 昭和59年7月11日(木)～7月27日(金) 全8回

会 場 松林分館、多摩河原、秋川 他

参加者 31人×8回＝248人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 1 1	オリエンテーション	自己紹介、班づくり	大 学 生 指 導 員
1 3	水をつくろう	ろ過装置をつくる。ビニールシートで水をつくる	"
1 6	火をつくろう	木をすりあわせて火をつくる	"
1 8	食べるⅠ	野草の知識	佐 藤 文 子 氏
2 0	" Ⅱ	魚をつろう	田 中 和 明 氏
2 3	キャンプについて	はんごうすいさん実習 キャンプ打ちあわせ	大 学 生 指 導 員
2 6	} キャンプ	いままでの技術を応用して、実際	"
2 7		に生活してみる。	

総 括 キャンプ場往復の約4時間の徒歩、ごはんのみそしるだけの食事（野草や魚が思うほど採れなかったため）にもかかわらず、不平も言わずやれたように思う。さぞ帰ってからの家のごはんがおいしかったにちがいない。

夏休み工作教室

竹をつかった手作りおもちゃ、実用品の作成をとおして、手づくりのよさ、手先をつかうことの大事さを経験する機会とした。

期 間 昭和59年8月29日(木)～8月31日(金) 全3回

会 場 松林分館

参加者 25人×3回＝75人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8 2 9	オリエンテーション	教室の説明、はしをつくろう	池 水 宗 太 郎 氏 (福生1小教諭)
3 0	けん玉をつくって あそぼう	けん玉をつくる ペーパーナイフをつくる	
3 1	竹とんぼをつくって とばそう	竹とんぼをつくる とばしっこをしてあそぶ	

総 括 小刀を作った竹細工に、コツをのみこめる子どもはじょうずにできるが、のみこめない子どもは最後まで不器用に小刀をあつかっていた。ふだん使いなれている子どももいるようだった。全般的に手の力、とくに握力がない子どもが多いような気がした。また、指先、手首、ひじそして体全体をバランスよく使いこなすことが不得手なような気がした。

親子おり紙教室

親と子どもがともに一つのことをやりとげる中で、親子のコミュニケーションをはかる機会として実施した。

期 間 昭和60年3月3日(日)～3月17日(日) 全3回

会 場 松林分館

参加者 9人×3回=27人

月 日	テ ー マ	内 容
3. 3	オリエンテーション	自己紹介、簡単なものから折ってみよう
3. 10	物語りの一場面を	物語りの一場面を自分で選び、それを折ってみよう
3. 17	仕上げ	折り紙を発泡スチロールの台に立て、背景をつくり、物語りの一場面の完成

総 括 ・ 子供の科学工作文庫「折り紙日本昔ばなし」のもも太郎をテキストに実施したが、講師不在のため、担当者、参加者が試行錯誤の中でつくりあげた。比較的難しい折り紙であったため、場面選定も一つのカギとなった。しかし、できあがったものはとてもすばらしかった。期間が短かったために家にもち帰り折ることが多かったが、両親と子どもと一家そろって折り紙にむきあっていたようだ。

子ども会リーダー研修会

子ども会ジュニアリーダー育成を目的に、野外活動の基本的技術の取得を目的として実施した。

期 間 昭和59年7月15日(日)～8月13日 全6回

会 場 松林会館、野外

参加者 9人×6回=54人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 1 5	オリエンテーション	研修全体の説明、自己紹介、ゲーム指導	斉藤明郎氏
2 2	オリエンテーリング	オリエンテーリングの方法、地図の見方、草花で実習	〃
2 9	20 Km 徒歩ハイク	福生から奥多摩みたけ間 21.6 Km 徒歩ハイク	〃
8. 5	野外炊事実習	テントの組立実習、野外炊事実習	〃
1 1	キャンプ打合せ	キャンプ事前打ち合せ	〃
12~13	ワーク・キャンプ	奥多摩町菅川井キャンプ場でワーク・キャンプ	〃

総 括 今日、子どもの生活の中から、自然とのふれあいが急速に失われ、子どもの自然に対する感性、自然に働きかける力、自分の体で自分の力をたしかめる機会が少なくなってきた。子どもが自然の中で、自分の体と経験をつかって集団であそべるための基本を学習した。20 Km ハイクでは、全員が5時間27分位で歩ききった。が集団でなにかをつくりあげたり、そのための論議したりすることが非常にへたになっているし、基本的な生活経験が弱くなっている。そういう意味でいえば、手労働を生活技術とともなうかたちで培う必要があろう。

子ども教室

地域の異年令のあそび集団が存在できにくくなっているし、その集団がもっていた、地域における教育力がおとろえてきている。1つのあそびのルールが学年によって違っていたりする状況が地域の中に起きてきている。いわば、子どものあそび文化そのものが断絶しはじめている。そういう中で、(1) 異年令であそべる機会をつくる。(2) 子どものあそびの中にあつた民主性を回復し、(3) 手、足の技や技術を回復しながら、子どもの文化をつなげていく (4) 仲間に働きかけ、何かをやりとげる力を育てる。ことを目標におこなった。

期 間 昭和59年5月26日(土)～昭和60年3月30日 全40回 午後2時から4時

会 場 松林会館、多摩川、公園

参加者 25人×38回＝950人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 26	開 講 式	自己紹介、班分け、ゲーム	担 当 職 員
6. 2	たのしくあそぼう	室内ゲーム	齊 藤 明 朗 氏
9	"	野外ゲーム	担 当 職 員
16	"	"	"
23	"	室内ゲーム、ロープ結びを覚える	"
7. 7	船をつくろう	舟のイメージ図作成	"
14	"	木を使って舟をつくる	"
21	"	いかだを作る	"
8. 4	"	"	"
11	"	多摩川でいかだあそび	"
18	松林ナイトキャンプ	松林会館庭でワーク・キャンプ	"
19		"	"
9. 1	たのしくあそぼう	室内ゲーム	"
8	大きなものをつくろう	あきかんザウルスの製作会議	"
22	"	空かんザウルスの図面づくり	"
29	"	"、空かんあつめ	"
10. 6	"	空かんあつめ、空かんザウルスの製作	"
13	"	"	"
20	"	"	"
27	"	空かん 2,000 個の空かんザウルス展示	"
11. 10	たんけんに出よう	多摩川、草花丘陵へたんけんに出る	"
17	"	多摩川、葦原たんけん	"
12. 1	野外ゲーム	サッカー	"
8	野外ゲーム	三角ベース	"
15	立体ダコ作り	立体飛行機だこをつくる	"
22	"	"	"
1. 12	"	"	"
19	"	"	"
26	"	"	"
2. 2	"	"	"
9	"	"	"

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 16	川原あそび	多摩川原であそぶ、川わたり	齊藤明朗氏 担 当 職 員
23	野外ゲーム	サッカー、どろけい	〃
3. 2	つくって食べよう	パンを焼く	〃
9	〃	クッキーを焼く	齊藤明朗氏
16	〃	おまんじゅうをつくる	貫井恵美子氏 齊藤明朗氏
23	〃	ドーナツをつくる	〃
30	〃	コロッケをつくる	〃

夏休みおもしろ科学クラブ（夏休み科学教室）

仮説実験授業を通して、科学のおもしろさを学ぶとともに、科学あそびのおもしろさをたのしむ。

期 間 昭和59年7月26日（木）から8月24日まで 全6回 午前10時～12時

会 場 松林会館 講師 原島貞夫氏（福生第2中学校教諭）、齊藤明朗氏（文教大）

参加者 20人×6回＝120人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 26	ベッコあめをつくる	ベッコあめをつくる	原島貞夫氏
8. 2	マムシあそび	「マムシの卵」づくり	〃
9	電気	電気を通すもの通さないもの	〃
13	30倍の世界	ものの拡大	〃
23	ラジオづくり	2石スピーカー式ラジオづくり	神蔵誠氏 齊藤明朗氏
24	〃	〃	〃

松林風あげ大会

“手づくり”あそびが失なわれつつある中で、手づくり風をつくるおもしろさと、たこをあげる技を競うおもしろさを体得するために、松林風あげ大会を行った。

日 時 昭和60年2月11日 午後1時～3時

会 場 かに坂公園

参加者 小学生11名

親と子のひろば

親子で参加することにより、ふれあいを深め、親が子を見つめる機会とする。

会 場 白梅分館

参加者 89人

テ ー マ	期 日	講 師	参加者
藤 細 工 教 室	昭和59年8月27日(月) 全1回	山崎初江 他	35人
あやとり教室	昭和60年2月 9日(出) "	神谷和男氏	33人
ファミリー・ハイキング	昭和60年3月17日(日) "	担 当 職 員	21人

総 括 藤細工教室では、子供は個性あふれる作品を作り上げ、母親に作り方を教える光景も見られた。

わんぱく教室

集団で遊ぶことの楽しさ、自然と接することの楽しさ、物をつくることの難しさ等を味わう機会として実施した。

期 間 昭和59年7月25日(水) ~ 8月9日(木) 原則として午後2時~4時

全7回

会 場 白梅分館、公民館、野外

参加者 20人×7回=140人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 25	ゲームで仲間を作ろう	自己紹介、班わけ、ゲーム	担 当 職 員
7. 27	水でつぼうを作ろう	水でつぼうの製作を通して班の連帯を計る	担 当 職 員
7. 30	パンを作ろう	パン作りの楽しさを教える	片野共子氏
8. 1	デイキャンプ打合せ	キャンプの準備、打合せ	担 当 職 員
8. 2	デイキャンプ	自炊することにより子供の自主性を育てる	担 当 職 員
8. 3	竹トンボを作ろう	竹トンボを作り、物をつくることの難しさを味わう	河久保金蔵氏
8. 9	高尾山たんけん	自然と接することの楽しさを味わう	上田千鶴子氏

総 括 水でつぼうの水や竹トンボが飛んだ時、子供は声を上げて喜んだ。

自分で作ったパンや御飯を家にもち帰り、母親に食べさせる子供もいた。

(3) 青 年

英会話教室

国際感覚を持つことの大切さが求められている今日、横田基地や市内在住の外国人との交流を通して異文化を理解する機会とした。

期 間 昭和59年9月7日(金)～12月21日(金) 全27回

会 場 公民館

参加者 540人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 7	オリエンテーション	自己紹介、具体的な進め方の説明	{ ミュキ ウェイド ミルトレッド・セイ クリアー・マ・チュン マイク・シャノン
10	会話の練習	基礎的な会話をマスターする	
14	"	"	
17	"	"	
21	"	"	
28	"	"	
10. 1	"	"	
5	"	"	
8	"	"	
15	"	"	
17	"	"	
22	"	"	
26	"	"	
29	"	"	
11. 9	"	"	
12	クッキー作り	参加者でクッキーを作り親ぼくを計る	
16	パーティー	七面鳥を焼いてパーティーをする	
19	会話の練習	テーマを設定して会話を進める	
23	"	"	
26	"	"	
30	"	"	
12. 3	"	"	
7	"	"	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
12. 10	会 話 の 練 習	テーマを設定して会話を進める	同 上
14	〃	〃	
17	〃	〃	
21	〃	〃	

若い市民の講座「コピーライター教室」

種々な発想法の訓練をとおして、青年の仲間づくりをはかる場として実施した。

期 間 昭和59年8月29日(木)～9月19日(木) 全5回

会 場 公民館

参加者 15人×5回＝75人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 29	コピーライトの内容	コピーライターの実際	榎本まさひこ氏 (コピーライター)
9. 3	ビジュアル面からの発想	図案を設定したコピーづくり	
9. 5	企画からの発想	対象を設定したコピーづくり	
9. 12	ひとつのテーマからの発想	テーマ設定からコピーづくりまで	
9. 19	公民館利用のすすめポスター企画	公民館利用者層拡大のためのポスターづくり	

総 括 参加者各々が、そのコピーができあがるまでの発想や企画を自由に話し合うことができた。また、その過程で仕事や生活について語り合う機会もあった。参加者の4分の3が10～20代であった。

成人式及び20歳のつどい

〈成人式〉

日 時 昭和60年1月15日 午前10時30分～11時15分

会 場 市民会館大ホール

主 催 福生市、福生市教育委員会（主管は社会教育課）

内 容 君が代吹奏、主催者祝辞、来賓祝辞、他

対 象 昭和39年4月2日から昭和40年4月1日までに出生した733人

参加者 402人

〈20歳のつどい〉

成人者みずからが、成人することの意味を考え、地域の人間関係などを再確認する機会として実施した。実施にあたっては、対象者に呼びかけ、「20歳のつどい実行委員会」を結成し準備にあたった。

日 時 昭和60年1月15日 午前11時15分～午後1時

会 場 市民会館4・5集会室

主 催 20歳のつどい実行委員会、福生市公民館

内 容 イ) 立食パーティー
ロ) 柳家 小勇独演会
ハ) 卒業アルバムコーナー
ニ) 記念写真コーナー

参加者 200人

〈20歳のつどい実行委員会〉

20歳のつどいの企画、実施など、成人者みずからの手によってつくりあげることを通して仲間づくりをすすめ、新たな青年の交流の場として実施した。

期 間 昭和59年12月5日(木)～60年1月15日(火)

会 場 公民館集会室

参加者 4人×6回＝24人

月 日	テ ー マ	内 容
12. 5	オリエンテーション	自己紹介、過去のつどいをビデオで観賞
12. 12	企 画 1	つどいの企画づくり
12. 19	" 2	"
12. 26	" 3	企画案完成
1. 9	準 備 1	アルバムコーナーづくり
1. 14	" 2	会場設営
1. 15	" 3	最終準備、本番

総 括 実行委員会参加者が4名とすくなく、卒業校にも片寄りがあった。実行委員4名では、じゅうぶんな企画・準備をするには人数不足で、成人者みずからの手によってつくりあげるといふ実行委員会形式には限界を感じた。

若い市民の講座「初級手話講習会」

手話講習を通して、青年の仲間づくりと障害を持つ人に対する理解を深める場として実施した。（福生市青年団体連絡協議会との共催）

期 間 昭和59年10月12日（金）～60年3月29日（金）

会 場 公民館集会室

参加者 15人×23回＝345人

月 日	テ ー マ	講 師
10. 12	オリエンテーション、自己紹介	
10. 19～11. 9	数の表わし方	古 沢 初 枝 氏
11. 16～12. 7	時の表わし方	小 島 黎 子 氏
12. 14～ 2. 8	手話表現の基本	谷 山 シ ョ ウ 氏
2. 15～ 3. 29	日常会話	（ 福 手 の 会 ）

総 括 手話サークル「福手の会」が中心になって、手話の初歩から日常会話までを習うことができた。指導者も参加者も熱心であった。

(4) 婦 人

女性講座「女が働くこと」

女性が働くことにかかわる問題を歴史的にとらえ、働くことの意味を問い直す機会として実施した。

期 間 昭和59年9月17日（月）～12月3日（月） 全10回

会 場 公民館

参加者 11人×10回＝110人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 17	女が働くこと	女性が働くことの意味	
10. 1	明治以後の婦人労働	女工哀史にみる婦人労働 農村の婦人	
10. 8	婦人労働者のたたかい	工場法、母性保護論争について	折 井 美 耶 子 氏 （女性史研究家）
10. 15	戦時下の婦人労働	軍需産業と婦人	
10. 22	戦後の婦人労働	戦後の婦人労働の変化	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 29	現代の婦人労働	現代の婦人労働の実情と問題点	折井美耶子氏 (女性史研究家)
11. 5	いま、世界の女性は	働く婦人の国際比較 差別撤廃条約とは	
11. 19	雇用均等法案と これからの問題	雇用均等法案とは 雇用均等法案の問題点	
11. 26	福生の女性は	福生の婦人労働について	
12. 3	再び、女が働くこと	主婦と婦人労働の問題	

総 括 本講座の前に準備会を5回設けた。働く婦人が参加できる時間帯を考慮して夜間開設すべきだった。

婦人学級「子育てと女性の生き方を考えよう」

子育ての悩みや女性の生き方を考えていく場として実施した。

期 間 昭和59年6月1日(金)～10月26日(金) 全15回

会 場 公民館

参加者 16人×15回＝240人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 1	はじめに	自己紹介、幼児室について	担 当 職 員
6. 8	幼児室とは	幼児室について	担 当 職 員
6. 15	幼児期から はぐくみたいもの	幼児期とは 子どもたちの現状から	岡本富郎氏 (白梅短大助教授)
6. 22	育児と私	作文「育児と私」をよみあう	担 当 職 員
6. 29	子どもをどう育てるか	子どもの生活環境 人間として生きていくこと	折井美耶子氏 (女性史研究家)
7. 6	保護者学習会について	子どもたちのどんな問題を学習会の テーマにするか	担 当 職 員
7. 13	子どもたちはいま	泣くということ、子どもたちにどん なかかわりができてきているか	保 育 者
9. 7	子どものおやつ	「おやつ」の資料を読みあう	
9. 14	〃	子どもの食生活は怎么样了っているか	保 育 者

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 21	子どもにとって遊びとは	子どもの状況 子どもにとって遊びとは何か	岡 本 富 郎 氏
9. 28	「乳幼児の生活時間しらべ」から	調査からわかったこと 子どもたちの現状と課題	〃
10. 5	主婦の自立と子育て	女の自立をどう考えるか 女の自立とは	折 井 美 耶 子 氏
10. 12	これからの活動について	これからどんな活動をしていきたいか	担 当 職 員
10. 19	これからの女性の生き方	女性が働くということ 婦人の現状	折 井 美 耶 子 氏
10. 26	おわりに	これからの活動について	

婦人学級「主婦－再出発への設計図」

主婦のおかれた現状と、子育て後の設計図を考える機会とした。

期 間 昭和60年2月27日㈪～3月28日㈪ 全5回

会 場 公民館

参加者 19人×5回＝95人

月 日	テ ー マ	講 師
2. 27	主婦たちはいま	藤 井 治 枝 氏 (婦人問題評論家)
3. 6	主婦－再出発への設定図	
3. 13	女性たちが歩んできた道	
3. 20	明日の家庭を拓く	
3. 28	私達の明日を語る	

総 括 子育て中の母親の参加が多く、子育て中から子育て後の生き方を真剣に考え始める機会になりえた。あらためて、主婦の力量を感じ取ることができた。

絵本を考える

母と子が公民館で共に学習する機会を提供した。特に母親には、子どもたちを取り巻く絵本の状況とそれを選ぶ目を養う機会とした。

期 間 昭和60年3月1日(金)～29日(金) 全5回

会 場 公民館

参加者 母親80人 子ども70人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 1	私の絵本論－Ⅰ	何故絵本を描くのか、絵本とは何かを聞く	木住野利明氏
3. 8	科学絵本とは	科学読物とはどういう分野なのかを聞く	山辺 昭代氏
3. 15	文学絵本とは	文学の絵本とは何か、児童文化とは何か	渋谷 清視氏
3. 23	地域文庫活動とは	地域文庫活動の実践を知る	高橋 洋子氏
3. 29	私の絵本論－Ⅱ	地域の作家に、地域での創作活動を聞く	中村 道雄氏

家庭教育学級

核家族化、地域の教育力の低下の中で、いま、若い母親はさまざまな問題をかかえこんでいる。そういう状況の中で、子育てや子どもの育つ環境を考え合ったり、知恵を出しあったり、婦人の現状をみつめつつ、その問題を発見する力や、解決する力を身につけながら、くらしの中にあらためて人間関係を豊かにするつながりを創る。幼児室を併設し、子どもを預けて学ぶことの意味と、子どもが集団の中で育ちあう場を保障して行った。

期 間 昭和59年6月4日(月)～10月29日(月) 毎月曜日 全15回 午前10時～12時

会 場 松林会館

参加者 17人×15回＝255人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 4	オリエンテーション	自己紹介、公民館とは何か、学級について	担 当 者
1 1	自己紹介	自分を語る	〃
1 8	〃	自分を語る	〃
2 4	何を学びたいか、はっきりさせよう	KJ法による課題設定	〃
7. 2	〃	〃	〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 9	おやつ調べ	こどものおやつを1週間にわたって調査、報告	担 当 者
1 6	保育学習会	保育室の子どもの様子を通して発達を考える	中 田 キ ミ 子 (保母)
2 3	プログラム作成	KJ法のまとめとプログラム化	〃
9. 3	子どもの食事、おやつを考える	7月の調査をもとに添加物やおやつについて話し合う	〃
1 0	子どもの食を考える	おやつ、食事、添加物等について	安 藤 節 子 氏 (雑誌めばえ編集長)
1 7	家庭、いま何が課題か	4人からレポート報告	受 講 者
1 0. 1	乳幼児の自主性、自立はどうつくられるか	乳幼児の自主性、自立を育てるには何が必要か	中 村 千 代 氏 (乳幼児の保育著者)
8	幼児の世界とあそび	幼児期の特徴と幼児期のあそびの意味	細 谷 勇 太 郎 氏 (コロリン村幼児園長)
1 5	地域の子育てをめぐる	幼児室学習会として、地域の子育てを共同保育から学ぶ	増 田 (保母)
1 2. 2 9	婦人の現状	差別撤廃条約、雇用平等法にふれながら婦人の現状を明らかにする	斉 藤 弘 子 (都立高教諭)

総 括 話しあい、レポート、調査活動等、自分たちの置かれた状況を見つめ直しながら、共同学習のおもしろさ、きびしさを受講者はそれぞれ感じとっていた。おやつ調査やプログラム作成の共同作業が夏休期間に、受講者によって自主的にくまれ、7月29日、8月13日、8月26日と共同保育が行われた。

女性史(自分史を通して、婦人の歩みを学ぶ)

自分史を書く作業をふくめて、(1) 歴史を学びながら時代を考え、(2) 女性として、母として、さまざまな矛盾をかかえた一個人として、婦人解放、自己解放への道をさぐる婦人問題としての歴史を学び、(3) 歴史学の研究方法を身につけるという三つの目標を設定して開講した。

期 間 昭和59年11月7日(木)から昭和60年2月27日(木)まで 全12回
午前10時～12時

会 場 松林会館

参加者 8人×11回=88人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1 1. 7	オリエンテーション	自己紹介、講座について	
1 4	年表作成	自分史年表作成	
2 1	〃	〃	
2 8	明治の女たち	明治後期の婦人運動を中心に(福田英子)	早川紀代氏 (女性史研究家)
1 2. 5	大正期の婦人運動	青踏社運動	〃
1. 9	大正デモクラシーと	母性保護論争をめぐって	〃
2 3	婦人運動	〃	〃
3 0		婦人戦線、新婦人協会をめぐって	〃
2. 6		〃	〃
2 0	消費組合運動	1920年代から1930年代にかけての消費者運動	〃
2 7	労働運動	1920年代から30年代にかけての労働運動と労働者の生活	〃

総 括 今回、主要な史料を毎回課題史料として、レポート、報告を参加者にしてもらった。史料を読み、レポートをすることにより、時代そのものへの理解、その時代の人々の思いや願いがより深く理解できた。と同時に歴史を学びつつ、婦人問題を自分自身の歴史的課題としてとらえる力を参加者が身につけてきている。なお、5月9日から10月17日まで20回にわたって準備会を持った。

婦人文章教室

書くことによって、自分自身の生活を客観的にみつめなおし、思考力・観察力を身につける。自分のいいたいことを、きちんと伝えられる文章を書けるようにとの思いで実施した。

期 間 昭和59年9月26日(水)～11月7日(水) 全7回

会 場 松林分館

参加者 8人×6回=48人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 2 6	オリエンテーション	自己紹介、課題文「私」の出題	吉 村 千 顧 氏 (フリーライター)
1 0. 3	文章指導 1	「私」の検討	
1 7	" 2	「私」の検討 課題文「ふるさと」出題	
2 4	" 3	「ふるさと」検討 太田治子『母の万年筆』より「愛しき母 太田静子の晩年」を読んでの感想発表	
1 0. 3 1	" 4	「ふるさと」の検討 「自由題」の検討	
1 1. 5	文集作成作業	有志による印刷等の作業	
1 1. 7	合評会、反省会	文集を読んで、教室に参加して	

総 括 期間、回数とも少なく、ハードなスケジュールの中、皆一生懸命に書いたといえるだろう。ふだん書きなれていないこともあり、原稿と検討されたあとには格段の違いがみえたようだ。

婦人問題講座「女が生きいきと働くために」

主に働くことを通して、婦人のおかれている状況を客観的に把握し、婦人問題の理解、解決にむけて実施した。

期 間 昭和60年2月28日(木)～3月28日(木) 全5回

会 場 松林分館

参加者 8人×5回＝40人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2 8	婦人労働の現状 1	参加者それぞれのおかれている状況を出しあう。ライフサイクルの変化と婦人労働	富 永 静 枝 氏 (白梅短期大学 教授)
3. 7	婦人労働の現状 2	パート労働の現状をふまえ、なぜパートなのか、その背景をさぐる	
3. 1 4	仕事と家庭と子育て	家庭、子育てをとおして、働くことを考えていく	
3. 2 1	3回を振り返って	3回の講義、話し合いをふりかえる	
3. 2 8	真の男女平等をめざして	差別撤廃条約、雇用機会均等法を通し、未来をみすえながら婦人問題を考える	

総 括 参加者が、フルタイムで働く婦人、パートで働く婦人、専業主婦等バラエティに富んでおり、それぞれの立場から興味深い話し合いがなされた。いままさらながら、婦人が働くことが厳しい状況ととなり合わせであることを痛感するとともに、長期的視点に立って女の将来を見すえなければならない。

婦人学級 高齢化社会と女の老後

高齢化社会がせまり、老後の問題が多くの人々の関心事になってきている。私たちが豊かで充実した老後を迎えるためには、今どのようなことに取り組むべきかを考えてゆく。

期 間 昭和60年2月28日(木)～3月20日(水) 全4回

会 場 白梅分館

参加者 13人×4回＝52人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 28	高齢化社会とは	高齢化社会の問題点	坂田周一氏
3. 7	女の老後の実態	老後でなぜ“女の老後”が問題になるのか	長嶋紀一氏
3. 14	老後のための生活設計	どうすれば、豊かで充実した老後を迎えられるのか	鳥田とみ子氏
3. 20	地域ぐるみで豊かな老後を	地域の老後問題への取りくみ	二瓶万代子氏

総 括 総人口に占める65歳以上の割合が6.2%（昭和60年1月1日）という当市において、老後問題に対する市民の関心は低かったが、数年後には高齢化社会への突入は必至であり、寝たきり老人や痴呆老人の問題がますます深刻化していくことは明らかである。そこで今後も老後問題をテーマにした講座を開設し、市民の関心を高め、地域ぐるみで取り組んでいくことが必要である。

家庭教育学級

都市化・核家族化の中で、地域の日常生活における人と人とのつながりの薄れが幼児にとっては、少数子・近隣の接触薄で、遊び（知恵の発達）の機会を乏しいものになっている。そこで、幼児がどのように成長・発達をとげていくかを見つめ、親の育児力や子ども同士のつながりにむけての役割について考える機会とした。

期 間 昭和59年6月7日(木)～11月1日 全15回

会 場 白梅会館

参加者 13人×15回=195人

回	月 日	内 容	備 考
1	6. 7	幼児室・当学級	職員の説明紹介と話し合い・打合
2	14	の紹介と打合せ	
3	21	育児体験から思うこと	参加者全員レポートと話し合い
4	28	幼 児 期 の	幼児教育研究者 大 堀 容 子 氏
5	7. 5	発 達	
6	12	私の目で見えた子どもの発達(実感)	話し合いと七夕飾りづくり
7	19	保護者学習会Ⅰ	子どもの世界の捉え方 動作・行動力からつかむもの
8	9. 6	生 物 と し て	大 堀 容 子 氏
9	13	の 人 間	報告 公民館保育者 増田公子さん 話 し 合 い
10	20	家庭・地域での子育てとこれから	明治大学教授 宮 岡 一 雄 氏
11	27	保護者学習会Ⅱ	話し 合 い
12	10. 4	基 礎 生 活 習 慣 と	報告 公民館保育者 湯野川雅子さん 話 し 合 い
13	18	自主化にむけて	
14	25	保護者学習会Ⅲ	話し 合 い
15	11. 1	まとめとこれから(自主活動への条件づくり等)	報告 公民館保育者 稲木道子さん 話 し 合 い

総 括 学級への初参加者が多数。 ・幼児期の発達内容 ・子どもが子どもの中で育つこと ・基礎生活習慣の形成などの視点をもてたと言えよう。各発達機能面から、親としてどう子どもに係わり育成にむけるか、また、子ども仲間集団を支える親・おとなの役割の研究はこれから。

お母さんのための教育講座

“幼児後期（４～６歳）の子どもの発達”

幼児後期になると、幼稚園・保育園などの集団教育（保育）の場に、殆んどの子どもが参加する。そこで、この時期の子どもの発達内容を明らかにし、近隣の仲間づくりが豊かな成長となることにむけ、親が家庭・地域ではたす望ましい教育的役割について考える機会とした。

期 間 昭和59年10月8日(月)～10月29日 全4回

会 場 白梅会館

参加者 12人×4回＝48人

回	月 日	内 容	備 考
1	10. 8	幼児後期の発達の特徴	お茶の水女子大学教授 浅見千鶴子氏
2	10. 15	子どもの発達に係わる親・おとなのあり方	幼児教育研究者 細谷勇太郎氏
3	10. 22	遊びによる社会性と知力の発達	日本総合愛育研究所 野田雅子氏
4	10. 29	地域の子どもの場づくり（現状とこれから）	話題提供 都社教主事 服部照親氏 話し合い

総 括 子どもの仲間づくりやその活動を支えていく事にむけ、親やおとなが地域の日常生活で係わりをもち合うための、自己の形成について考える機会となった。

婦人学級

“しらうめイブニングひろば”

社会変化の進行の中で、婦人は、家庭生活のほか、フル・パート・家庭にあつての仕事（自営含）をもつ潮流にある。また都市化・核家族化は生活階層分化等で身近なつながりの機会が乏しくなっている。この婦人の多忙な生活での様々な課題解決と、心的な豊かさにもむけ、よきおつきあいの場づくりとして以下のように実施した。

期 間 昭和60年2月4日(月)～3月25日 全7回

会 場 白梅会館

参加者 18人×7回＝126人

回	月 日	内 容	備 考
1	2. 4	参加者自己紹介 学級の性格と内容づくりについて	健康軽体操と話し合い 指導・話題 吉野チエ氏
2	2. 18	教育の場はふるさと、夫婦あい和すために	"
3	2. 25	子どもの育ち独立から、同居・別居について	"
4	3. 4	子どもの独立・夫婦・老後(生活の愉しみ方)	評論家 鷺津美栄子氏
5	3. 11	高度情報化と高齢化社会について	同 上
6	3. 18	かつての生活、人と人との関係と、これからのコミュニケーション	健康軽体操と話し合い 指導 吉野チエ氏
7	3. 25	私達の生活づくりと、この場の集まりについて	"

総 括 ふれあいの場合、生活上の話題の機会が少なくなっている中、30代後半から70代の参加を見た。互いの健康・生活を大切にすることは、ひとりひとりを大切にすることで、“つどう文化”の基礎。各年代の方の自由なふれ合いに向けて、夜間はより多くの人と出合う機会となっていくであろうと、話し合われた。以後月1回つどうことで自立化。

(5) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。
(生活への還元・グループへの参加・新しいグループの創造)
- (1) 公 民 館 連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。
- (2) 文化連盟 連盟の持つ力を、市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大(参加者や活動面)に役立てる。

昭和59年度 市民文化教室実施状況

文化連盟共催(10)

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参 加 員
編物・手芸	8月13日(月)から 全10回	ブルオーバーセーター、ベスト オリジナル手さげ	堂田きよ子氏	27人
日本人形	6月 6日(水)から 〃	木目込み人形、尾山人形	酒井虹晨氏	4人
書 道	9月 7日(金)から 〃	初心者むけの漢字、かな	私市石蘭氏	20人
茶 道	8月20日(月)から 〃	表千家流、男性を中心とした	麻生宗秋氏	8人
俳 句	6月14日(木)から 〃	現代俳句のやさしい鑑賞と作り方	来住野臥久氏	10人
民 踊	8月 8日(水)から 〃	民謡踊り	藤間勘姫延氏	12人
社交ダンス	8月20日(月)から 〃	基本ステップ	長島正穂氏	60人
尺 八	7月 5日(木)から 〃	都山流尺八の初歩的な吹奏習得	城戸皓山氏	10人
民 謡	8月24日(金)から 〃	初歩的な発声	安斉談楓氏	16人
詩 吟	7月 9日(月)から 〃	基本的な大意、発声、吟じ方を習得する	田辺嘉洲氏	9人

公民館主管(7)

コース	開講期間	内 容	指 導 者	参 加 員
藤 細 工	6月13日(水)から 全 7 回	基本的な藤細工技術の修得	荒井朋子氏	20人
陶 芸	9月12日(水)から 全 8 回	土ねりから茶わん作りまで	柴田 繁氏	21人
マイコン	7月 9日(月)から 全12回	マイコンの基礎知識と操作	成田彦六氏	20人
テラリウム	11月15日(木)から 全 6 回	ガラスの切り方から作品の完成まで	酒井和子氏	15人
七 宝 焼	11月 1日(木)から 全 4 回	七宝焼	大国広志氏	19人
ビデオ映画	1月31日(木)から 全10回	ビデオの基礎とビデオ映画制作	佐々木堅次氏	15人

市民大学講座「演劇」

演劇の基礎から市民会館小ホールでの上演発表会まで実施した。

期 間 昭和59年5月10日(内)～12月9日(日) 全23回

会 場 公民館集会室および市民会館小ホール

参加者 20人 延460人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 10	交 流	自己紹介、演劇概論	福島靖夫氏 (劇団ひまわり俳優)
17	演劇概論	講師による演劇概論	
24	体操・発声練習	基本となる体操・発声練習	
31	体操・朗読実習	基本となる体操・朗読実習	
6. 7	〃	〃	
7. 5	〃	〃	
12	体操・演技実習	基本となる体操・演技実習	
19	〃	〃	
9. 6	演技実習	演技実習	
13	〃	〃	
20	〃	〃	
27	〃	〃	
10. 4	〃	〃	
18	〃	〃	
25	〃	〃	
11. 8	〃	〃	
15	〃	〃	
22	〃	〃	
29	〃	〃	
12. 1	〃	〃	
5	リハーサル	小ホールでのリハーサル	
8	演技実習	演技実習	
9	上 演	小ホールでの上演	

総 括 小ホールでの上演に約250名の観客が集まった。講師と参加者の努力と協力により、無事に上演できた。

レクリエーションリーダー養成講座

町会やPTA役員になった人を対象に、レクリエーションのリーダーとなるべく指導力を身につける機会として開いた。前期はレクリエーションを中心に、後期はダンスを中心に開いた。

期 間 前期 昭和59年5月30日(水)～ 7月18日(水) 全8回

後期 昭和59年9月12日(水)～10月 3日(水) 全4回

会 場 公民館

参加者 232人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
5. 30	室内ゲームⅠ	じゃんけんゲームを中心に習う	二本松はじめ氏
6. 6	Ⅱ	紙や他の用品を使つてのゲームを習う	〃
13	野外ゲームⅠ	キャンプ時などのゲームを習う	〃
20	Ⅱ	〃	〃
27	手あそび	かんたんな手あそびを習う	〃
7. 4	創作実習	仲間とゲームを創作する	〃
11	実践の実習	実際のゲーム指導を練習する	〃
18	まとめ	参加者同士で成果を発表し合う	〃
9. 12	レクダンスⅠ	ジャズダンスを中心に習う	〃
19	Ⅱ	レクリエーションダンスを実習する→Ⅰ	〃
26	Ⅲ	フォークダンスを実習する	〃
10. 3	Ⅳ	レクリエーションダンスを実習する→Ⅱ	〃

市民大学講座「私たちの街を考える」

私たちの街の成り立ちや周囲の状況の変化を自然科学的（主に植物・昆虫・開発）側面から知る機会とした。

期 間 昭和60年2月27日(水)～3月27日(水) 全5回

会 場 公民館

参加者 100人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 27	多摩川と私たちの生活	多摩川の植物と私たちの関係を知る	宮岡一雄氏
3. 6	草花丘陵の動植物	草花丘陵の動植物の変化を知る	大森雄二氏
3. 13	滝山丘陵の動植物	滝山を中心とした地質・動植物を知る	金井郁夫氏
3. 20	福生市近郊の開発	圏央道の問題を中心に考える	大和田一紘氏
3. 27	やすらぎのある空間とは	都市の緑の果す役割を明らかにする	品田 穰氏

自然観察会

私たちが生活している福生市の状況を自然の側面から観察し、自然と私たちの関係を知り、私たちの日常生活のあり方を考える機会とした。 延 267人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 27	水生昆虫観察会	水生昆虫の生活と水質の関係を知る	田中和明氏
9. 22	鳴く虫の "	草はらのちがいと昆虫の分布状況を知る	栗原 仁氏
9. 30	植 物 "	秋の多摩川の植物を観察し、生息状況を知る	宮岡一雄氏
12. 2	野 鳥 "	冬の多摩川で見られる鳥を知る	栗原 仁氏 岡田紀夫氏
2. 17	"	林の鳥と水辺の鳥のちがいを知る	
2. 24	"	広い水面にいるカモ類を中心に観察する	
3. 3	"	平井川のカワセミなどを見る	
3. 10	"	草はらと水面にいる鳥のちがいを知る	
3. 17	"	丘陵の鳥を観察する	

視聴覚リーダー研修会「16ミリ発声映写機操作講習会」

16ミリ映写機の操作講習を通して、地域の視聴覚リーダーを養成する機会とした。

期 間 昭和59年6月21日(木)～6月27日(水) 全5回

会 場 公民館

参加者 20人×5回＝100人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 2 1	視聴覚教育について	視聴覚教育と映写機の機構と操作	西 野 光 芳 氏 (立川社教会館)
6. 2 2	16ミリ 映写機操作練習	操作練習	
6. 2 3	〃	〃	佐 藤 勝 貫 氏
6. 2 5	〃	〃	上 島 茂 氏
6. 2 7	個別操作と終了式	自由操作と個別操作	

総 括 修了証を発行するだけでなく、それを使いこなす機会を設ける必要を感じた。

ボランティア講座

障害者との基本的なかかわり方や、初歩的な介助の仕方を身につける機会とした。

期 間 昭和59年9月26日(水)～10月24日(水) 全6回

会 場 公民館

参加者 13人×6回＝78人

月 日	テ ー マ	講 師
9. 2 6	「障害」とは	近 藤 正 氏 (淑徳短大教授)
10. 3	障害をもつ人の理解とかかわり方	山 下 務 氏 (青梅学園々長)
10. 8	障害者問題とボランティア活動の実際	近 藤 正 氏
10. 13	施設見学会	場所 青梅学園
10. 17	ボランティアのこころ	木村洋子氏・清水照美氏(ボランティア)
10. 24	地域に根ざしたボランティア活動	森 正 夫 氏 (ボランティア)

総 括 講座での学習を生かせる実践の場を提供するため、関係諸機関との恒常的な連携の必要性を感じた。

市民大学講座・法律「情報化社会と法」

情報化社会と法にかかわる問題の中から毎回のテーマを設定し、それらを通して法というものをとらえ直す機会とした。

期 間 昭和59年11月5日(月)～12月3日(月) 全6回

会 場 公民館

参加者 21人×6回＝126人

月 日	テ	マ	講 師
11. 5	情報化社会とは何か		堀 部 政 男 氏 (一橋大教授)
11. 12	情報化社会と市民生活		
11. 19	コンピューターと法		
11. 26	コンピューター犯罪		
11. 30	情報化社会とプライバシー		
12. 3	情報化社会と情報公開		

総 括 情報関係法の權威の講師を迎えることができ、充実した内容のプログラムを組むことができた。また参加者も毎回のテーマをこなすために、事前学習をしたように学習の深まりもある程度なした。

小栗康平監督講演会

第40回市民名画劇場「泥の河」上映と同時に、「泥の河製作をめぐって」のテーマで講演をしてもらった。

日 時 昭和60年1月26日出 午後6時半～7時半

会 場 市民会館小ホール

参加者 160人

総 括 講演の内容がややむずかしかったが、文化講演会という新しい試みとしては意味のあるものだった。

第3回公民館のつどい

公民館利用者相互の交流と親ばくを深める機会として、また、公民館利用の新しい方法の可能性をさぐるためにも実施した。

期 間 昭和59年5月13日(日)～7月16日(月) 全11回

実施日 昭和59年7月7日、8日

会 場 公民館、市民会館

実行委員会10回×14人=140人

参加者 (延人数) 350人

当日参加者 210人

月 日	テ ー マ	内 容
5. 1 3	第 1 回実行委員会	今年度のつどいの案が論議された。企画委員の選出
1 4	〃 企画 〃	メインテーマの決定とつどいの具体案の作成
2 6	第 2 回実行委員会	具体案の検討
2 8	〃 企画 〃	呼びかけのパンフレット等の他、内容の検討
6. 9	第 3 回実行委員会	演示・展示希望などの確認
1 1	〃 企画 〃	最終希望と内容の確認
1 7	第 4 回実行委員会	各パートの進行状況のチェックと参加人数の確認
3 0	第 5 回 〃	プログラムや当日の司会、進行の検討
7. 7	講 演 会	“地域をつくる力をどう発展させるか” 池上洋通氏
8	演示・展示・話し合い	つどい当日
1 6	反 省 会	今年度のつどいをふりかえって参加者同士の反省

P T A 入門講座（教育講座Ⅰ）

P T A 活動の大切さ、P T A の役割などについての理解を深めるために、入門講座として行った。

期 間 昭和59年6月8日（金）～ 6月22日（金） 全3回 午後2時から4時

会 場 松林会館

参加者 27人×3＝81人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 8	いまなぜ、P T A が必要か	いま教育問題を考える上でP T A の役割を考える	白 井 慎 氏 (法政大学教授)
1 4	P T A の歴史	P T A 発足時の理念を学ぶ	
2 2	活力あるP T A	P T A を活力あるものにするための手だてを考え、学級P T A の役割を考える	

教育講座Ⅱ

今日の教育問題を整理しながら、「教育改革」の課題について考えた。

期 間 昭和60年3月1日（金）から3月23日（金） 全5回 午前10時から12時

会 場 松林会館

参加者 15人×4=60人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 1	今日の教育問題	今日の教育問題をテーマにKJ法	白 井 慎 氏 (法大教授)
8	戦後の教育制度	KJ法のまとめと戦後の学校制度の歴史	〃
15	今日の教育改革	「教育改革」の背景を考える	島 田 修 一 氏 (中大教授)
23	教育基本法を読む	教育基本法を読み、戦後教育の理念を考える	白 井 慎 氏

総 括

“今日の教育問題”

市民大学文学、万葉を読む

古典、万葉集の系統的理解とともに、時代背景をさぐり、日本古典文学をたのしく学ぶ機会とした。

期 間 昭和59年11月5日(月)から12月10日(月) 全6回 午前10時～12時

会 場 松林会館

参加者 21人×6=126人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 5	オリエンテーション	自己紹介、講座について 文献紹介	高 野 正 美 氏 (都立立川短大教授)
12	万葉集について	万葉における女流歌人について	〃
19	大伴坂上郎女	大伴坂上郎女とその周辺	〃
26	〃	〃	〃
12. 3	笹 女 郎	笹女郎とその周辺	〃
10	山口女王・大神女郎	山口女王、大神女郎の周辺	〃

郷土史と史跡見学会（市民大学歴史Ⅰ）

福生市内の史跡見学を中心とした、郷土史の学習を行った。

期 間 昭和60年3月3日(日)から3月24日(日) 全3回 午後1時から4時

会 場 市内及び五日市

参加者 10人×3＝30人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 3	福生史跡見学	福生地区の史跡を歩く	立川愛雄氏 (市文化財専門委員)
3. 10	熊川史跡見学	熊川地区の史跡を歩く	〃
2. 24	ところの碑見学	ところの碑を五日市 光厳寺に訪ねる	立川愛雄氏 高崎勇作氏 峰岸秀雄氏

総 括 福生市民は、地方から移住してまだあまり年数のたっていない居住歴の浅い市民層で形成されていることが、昭和57年の市政世論調査によって明らかにされている。新しい市民の中に、地域の郷土史に対する関心がある。それは、地域を知りたいという要求のあらわれでもある。今回の講座でも、参加者の多くが、新住民であった。

人権の歴史を学ぶ（市民大学歴史Ⅱ）

婦人の差別撤廃条約が第34回国連総会で採択されてから10年を迎えるが、私たちの身の回りを見るとき、男女差別、部落差別など、不当に人権がおかされているさまざまな差別がある。あらためて、基本的人権の歴史を学ぶことによって、基本的人権を考える場とした。

期 間 昭和60年3月6日(木)から3月27日(木) 全4回 午前10時～12時

会 場 松林会館

参加者 7人×4＝28人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
3. 6	基本的人権と部落差別	基本的人権と私たち、現代社会と差別	川村善二郎氏 (東京経済大学講師)
13	水平社宣言から学ぶもの	水平社宣言を読んで レポート	〃
20	水平社宣言から学ぶもの	水平社宣言の意味するもの	〃
27	全国水平社と清和会	水平社創立以後の歴史	〃

手づくり絵本講座（子ども会指導者研修会）

子どもに手づくりの文化ををテーマに、民話を題材に、手づくり民話絵本創作講座を開催した。

期 間 昭和59年11月8日(木)から昭和60年1月24日(木) 全8回 午前10時から12時

会 場 松林会館

参加者 13人×8回＝104人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 8	絵本について	子どもにとって絵本とは何か	若 山 け ん (絵本作家)
15	題材選び	民話から絵本の題材をさがす	〃
22	割 ぷ り	文章と絵のわりつけ、ラフ画製作	〃
29	絵本原画づくり	絵本画づくり	〃
12. 6	〃	〃	〃
1. 17	〃	〃	〃
24	〃	製本の技術	〃
2. 17	作品完成式	合評会	〃

総 括 絵本製作は初めてであったが、参加者は「徹夜をして絵を書いた」という人が何人もでてきている。絵本を書くことによって、絵本の見方がしっかりしてきたというのが受講者の意見であった。

手づくり絵本製本講座

手づくり絵本は保存が問題だと良くいわれる。それは多くの場合、製本の未熟さによるところが大きい。今回手づくり民話絵本を製作を機に製本技術の修得を図書館職員の努力のもとに行った。

期 間 昭和60年2月7日(木)から2月28日(木) 全4回

会 場 松林会館

参加者 11人×4＝44人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 7	製 本 の 基 本	本のかたち、名称、表紙がけの方法	島 弘 (図書館司書)
1 4	製 本 の 実 習	製 本 実 習	"
2 1	"	"	"
2 8	"	"	"

松 林 文 庫

地域の子どもたちにとってすぐれた児童図書や絵本を提供する場として、地域文庫を開催し、読聞かせ等を行った。

期 間 昭和59年4月5日(木)から昭和60年3月28日(木) 全44回 午後3時から午後5時

会 場 松林分館

参加者 44回×15人=660人

子どもフェスティバル

子どもの手による、子どものための、子どもの祭りを目標、第2回子どもフェスティバルを子どもフェスティバル実行委員と共催した。

期 日 昭和59年5月26日(日) 午前10時から午後4時30分まで

会 場 松林会館、公園

参加者 700人

当日のプログラム

10時	模擬店 おかしや 焼そば	ガラクタ市	映画	手づくりコーナー	人形劇 おぼけ屋敷
11時	ベッコあめ		映画		
12時	クッキー				
1時					人形劇
2時					
3時			映画		
4時					

子どもフェスティバル実行委員会

期 間 昭和60年1月7日から5月25日出 全15回 午後2時から午後4時

会 場 松林会館

参加者 15×50人=750人

精密木工教室

実用的な引き出し付小箱の製作を通して、手作りのよさ、創作するよろこび、そして、大人同士の横のつながりをもとめて、実施した。

期 間 昭和60年2月23日出～3月23日出 1日2回 全10回

会 場 松林分館

参加者 13人×10回=130人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 23	オリエンテーション	自己紹介他	稲垣秀夫氏 野口偉雄氏 (東京身体障害者職業訓練校教諭)
	練習Ⅰ	道具の説明、継手の練習	
3. 2	練習Ⅱ	〃 ほぞ穴の練習	
	製作Ⅰ	天板、側板の継手製作	
3. 9	製作Ⅱ	側板のほぞ穴、2段仕切り継手製作	
	〃 Ⅲ	組み立て、引き出し製作、組み立て	
3. 16	製作Ⅳ	台輪の製作、組み立て	
	〃 Ⅴ	調整	
3. 23	仕上げⅠ	ペーパーかけ、目止め	
	Ⅱ	塗装	

総 括 参加者全員夢中になって工作にはげんだ。できあがった小箱に満足げであった。

製作中もお互いに教えあい、なごやかに交流ができたように思う。製作のあい間に、講師より興味深い話もあり、たいへん参考になったようだ。

松林ひだまりハイク

さわやかな晩秋の一日、奥武蔵の山を歩き自然と親しむ。

期 間 昭和59年11月18日(日)

場 所 奥武蔵
 参加者 22人
 講 師 宮岡一雄氏（明大教授）

コース 東福生駅 ^{八高線} 東飯能駅 ^{西武線} 西吾野駅 ^{歩行1時間} 萩ノ平茶屋 ^{歩行30分}
 高山不動尊 ^{歩行30分} 関八州見晴台（昼食） ^{歩行35分} 花立松ノ峠 ^{歩行40分}
 黒山三滝 ^{歩行15分} 黒 山 ^{バス} 越生駅 ^{八高線} 東福生駅

総 括 当日の天候がいまひとつさえなかったが、みな楽しくハイキングできたように思う。少しものたりない方もいたようで、コースの設定が難かしい。

松林分館利用者交流会

利用者相互の交流、館との連絡調整のため実施した。

月 日	内 容	参 加 者
4.	昭和59年度松林分館事業計画について、情報交換 他	
8. 27	公運審委員の推せんについて	10人
9. 10	〃	13人

総 括 館主導型より早く脱皮し、真の利用者交流会として成長していけるよう、今後
 も考えていかなければならない。

松林分館利用者交流会学習会

分館利用者を中心に、社会教育・公民館の理解をすすめ、自分たちの活動に位置づける意味で実施した。

月 日	テ ー マ	内 容	講 師	参加者
6. 4	公民館とは	社会教育と学校教育、長野県松川町の実践に学ぶ	奥田泰弘氏（中央大学助教授）	15人
S60 3. 25	市民にとって公民館とは	重本氏の“私にとっての公民館”から学ぶ	重本弘子氏（東村山市公運審委員）	12人

総括 平日の午後実施ということで参加者もかぎられたが、それにしても参加者が少ない。社会教育・公民館の理解を、継続して実施していく必要がある。又、サークル代表者のみならず、利用者ひとりひとりにまでひろげていくことが必要であると痛感する。

だれでもなんでも展（松林分館文化祭）

地域に開かれた文化祭をめざし、(1) 地域に手づくりの文化を育てるために、(2) 市民のふれあいの場に、(3) 分館の活動を地域に広め、地域の人々が気軽に参加できる文化祭を目標に、実行にあたっている。利用者交流会が主体となり、「だれでもなんでも実行委員会」を結成し、準備、実施にあたった。 18人×10回＝180人

準備日程

月 日	内 容
8. 27	なんでも展趣旨の検討
9. 12	イメージづくり、テーマの決定
17	実行委員長決定、全体の規模、内容の検討
27	参加団体、出品点数第1次集約、アピール文決定
10. 1	PR関係の確認、全体構成の決定、部門別の検討
8	PR関係の確認、部門別検討
15	展示関係第2次集約、役員体制検討
22	最終うちあわせ
26	作品搬入、展示品セット
27 28	だれでもなんでも展 当日
11. 12	反省会

当日のプログラム

10月27日(土)

- 展示コーナー（分館利用サークル作品、一般出品者作品の展示）
- 映画「こむぎ色の天使」
- ビデオ紹介コーナー（分館サークルの紹介）

10月28日(日)

- 展示コーナー
- 映画「ふたりのローラ」
- フォークコンサート (フォークソングサークル "まい・みい・まいん")
- マジックショー (福生アマチュアマジッククラブ)
- 人形劇 (ちいさな仲間たち)
- 模擬店
- 喫茶コーナー
- ビデオ紹介コーナー
- 実演コーナー (七宝焼)

一般応募作品 112点 サークル作品 357点
参加サークル 24団体 延入場者数 2,204人

松林ホームシアター

主に子ども達に、すぐれた映像文化、なまのすぐれた人形劇観賞の機会として実施した。

月 日	内 容	上 映 時 間	参加人数
4. 28	大どろぼうホッソエンブロッツあらわる	午後2時	43人
5. 27	ビビ船にのる	午前10時半、午後3時半	186人
6. 23	さようならぼくの犬ロッキー	午後2時、3時半	24人
7. 28	夏のこわーいお話し会	午後3時、7時	20人
8. 26	冒険ハンスとふしぎな子猫たち	午前10時、午後2時	38人
9. 29	南海の漂流	午後2時、3時半	63人
10. 27	こむぎ色の天使	午後2時、3時半	60人
10. 28	ふたりのローラ	午前10時、午後3時	145人
11. 23	チャップリンの「兵隊さん」「番頭」	午前10時半、午後1時半	58人
12. 23	いたずら天使ミッシェル	午前10時半、午後1時半	35人
1. 26	チャップリンの「キッド」	午後2時、3時半	50人
2. 23	ピーターラビットとなかまたち	午後2時、3時半、7時半	133人
3. 17	ちいさい人形劇の会	午後2時	90人

子どもまつり

子どもたちが統一したテーマにとりくんでいくことで、やりとげることの喜びを味わう機会として実施した。

期 間 昭和59年9月22日(出)～11月18日(日) 全10回

会 場 白梅分館

参加者 実行委員会参加者 15人

当日参加者 328人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
9. 22	オリエンテーション	プログラムの説明、自己紹介、ゲーム	担当職員
29	おまつりの企画	どんなおまつりにするか話し合う	〃
10. 6	〃	〃	〃
13	当日の詳細準備活動	出しものごとに準備	〃
20	〃	〃	〃
27	〃	ポスター、チラシづくり	〃
11. 3	〃	出しものごとに準備	〃
10	〃	〃	〃
17	〃	会場づくり、役割分担	〃
18	子どもまつり	割ばし鉄砲、あめちゃん、オリジナルバッヂ、らくがき、めいう、かん馬、わたあめの各コーナーを設ける	〃

総 括 当初、実行委員になる子どもが少なく、前年度の実行委員へ通知を出したり、二小の前でチラシを配布し参加を呼びかけた。参加した子どもも、毎回出席できず準備が思うように進まず、まつりのスケールも縮小せざるをえなかった。今後、いかに実行委員を多く集めるかが課題である。

当日の参加者は年々増加しており、定着しつつあるといえる。

白梅親子映画会

親子連れで見られるような作品をとりあげ、子供たちにすぐれた映像文化を提供する機会として実施した。

会 場 白梅会館

上映日	上映作品	上映時間	入場者
4. 29	大どろぼうホッツェンブロッツ	午前10時 1回	15人
6. 24	さようなら ぼくの犬ロッキー	午前10時、午後2時 2回	22人
8. 25	冒険ハンスとふしぎな子猫たち	午前10時、午後2時 2回	50人
10. 27	ふたりのローラー	午後1時30分、午後3時 2回	80人
12. 22	いたずら天使 ミッシェル	午後1時30分、午後3時 2回	45人
2. 24	ピーターラビットとなかまたち	午前10時、午後2時 2回	160人

映画の広場

市民に身近なところで気軽に映画鑑賞ができる機会を提供するとともに、映画を通して様々な問題について考える機会として実施した。

会場 白梅会館

上映日	上映作品	上映時間	入場者
11. 23	鉄道員	午後2時 1回	11人
1. 20	影 - 棟方志功の世界・手漉和紙	午前10時30分 1回	10人
3. 23	朱鷺・ふるさとを棄てたサギ	午後2時 1回	10人

教育講座 思春期の子育て

思春期の子どもたち(中学生)による非行、校内暴力、家庭内暴力などが社会的に大きな問題となっている。また、このような問題行動ばかりでなく、「中学生になったら何も話さなくなった」「何かと親に反発するようになった」というような悩みや不安も多くの親が持っている。

思春期とはどのような時期なのか、それを明らかにし、対応の方法を学ぶ。

期間 昭和59年6月14日(木)～7月12日(木) 全5回

会場 白梅会館

参加者 33人×5回＝165人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 1 4	いま、中学生は	今日の中学生の生活や意識を明らかにする。	長 嶋 安 男 氏
6. 2 1	中学生の男女交際と性	今日の中学生は男女交際や性に対してどのような意識を持っているのか。親としていかに対応するのか。	佐 橋 憲 次 氏
6. 2 8	中学生と進路	中学生にとって進路選択とはどういう意味があるのか。親としていかに対応するのか。	山 田 暁 生 氏
7. 5	中学生と非行	今日の中学生非行の現状を明らかにし、子どもたちが非行へ走る原因を探る。	関 根 庄 一 氏
7. 1 2	思春期の家庭教育	受験や非行など中学生を取り巻く環境が悪化していく中で、中学生の親として子どもにどのように対応していったらよいのか。	望 月 一 宏 氏

総 括 関心のあるテーマだけに参加者が多く、講師の話を書くという形だけで終わってしまい、話し合いを深めることができなかった。

また、父親の参加もあり夜間実施の意義があったと思う。

父母のための子育て講座

子どもの仲間や遊びの減少は、児童期の子どもの社会性の発達を歩みさせている。個人中心、知識主義を越えて、仲間遊びや集団活動を通して、基本的な知力と全面発達を保障する必要がある。そのために、親・おとなは、その全面発達を見つめ、仲間集団を客観的にどう保障したらよいか考える機会とした。

期 間 昭 和 6 0 年 2 月 4 日 (月) ～ 3 月 1 1 日 全 5 回

会 場 白 梅 会 館

参加者 1 8 人 × 5 回 = 9 0 人

回	月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1	2. 4	健康・興味関心・意欲	・子どもの成長に思う・日常の体力づくり・夜の運動クラブづくり	都社会教育主事 折 笠 良 文 氏
2	1 8	児童期の発達Ⅰ	児童期全般の発達について	駒沢大学講師 酒 匂 一 雄 氏
3	2 5	Ⅱ	活々とした仲間遊び集団活動がもたらすもの	同 上
4	3. 4	子ども集団活動とは	子ども集団活動づくりとその試みについて	都社会教育主事 服 部 照 親 氏
5	1 1	生物としての人間の発達	生きものである人間（子ども）の遊びと生きる力	明治大学教授 宮 岡 一 雄 氏

総 括 子どもの基礎習慣・集団遊びなど、様々な体験が知力・学力となっていくこと。
また、親・おとなが、子どもの集団活動を保障する条件づくりに果す役割の大切
さと、そのための指導者・おとな間の係わりについての研究となった。

2. 市民大学講座 “現代家族の教育的役割”

現在は、日常生活で学ぶ必要と機会が広がりを見せている。かつて家族がもっていた多くの役割は社会化し、教育も社会化している。社会の動きの中で、いま家族（家庭）の教育的な面で大切にしたいことについて見つめる機会とした。

期 間 昭和60年3月20日(水)～3月27日 全2回

会 場 白梅会館

参加者 6人×2回＝12人

回	月 日	内 容	講 師
1	3. 20	家庭と地域社会（葬儀等めぐって）	群馬大学教授 萩 原 元 昭 氏
2	2 7	家庭成員の生活サイクルと生涯の学習	同 上

総 括 人は、他者との相互交渉によって生きている。独立自由である個人が、自らが生きる各種の場で、望ましいルールを形成し、生活するという点で、生涯の学習の大切さを考えるものとなった。

「第3回 白梅会館利用者発表会」 白梅分館

白梅会館で活動しているグループの交流の場として、また地域に活動を広めていくことを目的として発表会を実施した。

実行委員会日程

日	程	内 容	参 加 者
4月 6日	午後7時30分 ～ 9時30分	演示の部役割分担	6団体 9人
4月18日	午後7時30分 ～ 9時30分	プログラムづくり、広報活動について	15団体 20人
5月16日	午後7時30分 ～ 9時30分	プログラム製本、最終打合せ	14団体 20人
6月 4日	午後7時 ～ 10時	実行委員会反省会	19団体 23人

発表会プログラム

5月26日(土) 展示 「手芸・籐細工・パッチワーク・生花・七宝焼・ヨガサークル展」

午前10時～午後5時

演示 「お茶席」 午後1時～4時

「こどものひろば」 午後2時～3時

5月27日(日) 展示 「手芸・籐細工・パッチワーク・生花・七宝焼・ヨガ・ボーイス

カウト展」 午前10時～午後4時30分

演示 「籐細工手づくりコーナー」 午後1時～3時

「民謡・民踊・詩吟・囃子・コーラスのつどい」

午後12時30分～3時30分

「8ミリ映画上映会」 午後3時30分～4時

参加団体数 18団体 展示 10団体

演示 8団体

参加者数 170人 展示 75人

演示 95人

入場者数 485人 (参加者含む)

「第4回 白梅会館利用者発表会」実行委員会（白梅分館）

(1) 日頃の公民館活動の成果の発表の場とする。(2) 個々のグループが同一目標に向って活動することにより、交流・親睦を深める機会とする。(3) 公民館活動を地域に広め、熊川の文化のひろばとなることを目的として、60年5月を実施の目処に、実行委員会を組織し準備をすすめた。

実行委員会日程

日	程	内	容	参 加 者
3月16日	午後7時30分 ～ 10時	参加の広がり	と今年の内容について	22団体 24人
3月30日	〃	今後の準備日程及び当日のスケジュール		18団体 20人

白梅ハイキング

自然に親しみ、山歩きを多くの人と楽しみ、新たな人のつながりを得る機会として実施した。

実施日時 昭和59年10月28日(日) 午前7時45分～午後4時

ところ 檜原村浅間尾根

参加者 13人

コ	ー	ス	案 内 者
風張峠	——	浅間領 —— 時坂峠 —— 北秋川橋	上田千鶴子さん

白梅利用者研修会

日常公民館を利用し活動する方々が、公民館の働きを知り、地域での公民館の役割について明らかにする機会として実施した。

実施日時 昭和60年3月3日(日) 午前10時～12時

会 場 白梅会館

参加者 26人

日 時	内 容	講 師
3月3日(日) 10時～正午	・地域のお茶の間としての公民館・活動 交流と表現が生み出すもの	小 林 文 人 氏 (学芸大学教授)

総 括 これを期に、第4回白梅利用者発表会への準備活動の開始とした。

白梅利用者のひろば

白梅会館が公民館の分館として、より使いやすい場となること。利用者間の交流の機会として実施した。

日 時 昭和59年9月14日(金) 午後7時30分～10時

会 場 白梅会館

参加数 15人

日 時	内 容	備 考
昭和59年9月14日(金)	・グループの様子の交換・公運審とは ・館への意見・希望等	利用者間及び館との話し合い

総 括 この場が利用者の交換の場となり、公民館運営審議会ほか、公民館を考える機会となるように話し合われた。

高 齢 者

語らいの広場「楽しい指圧」

簡単な自己指圧で体の調子をととのえ、健康を維持するとともに、他人指圧で仲間づくりができる場として実施した。

期 間 昭和59年11月9日(金)～12月14日(金) 全6回

会 場 公民館

参加者 22人×6回＝132人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 9	あなたのからだのク ライ発見	西洋医学と東洋医学 自己指圧、あんま、マッサージ	小 峰 徳 路 氏 (指圧師)
11. 16	ツボとは何？	高血圧下降剤、ツボとは 自己指圧	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 23	手当とは何でしょう？	手当とは 自己運動法 手かざし法と体の電気	小 峰 徳 治 氏 (指 圧 師)
11. 30	他 人 指 圧 Ⅰ	指の使い方、強さのかげん 時間のかげん、指圧	
12. 7	他 人 指 圧 Ⅱ	指圧(腹部、首、肩、腕)	
12. 14	他 人 指 圧 Ⅲ	指圧(頭部、顔面、頸部) いろいろな療法	

総 括 どこかしら調子の悪い人が予想通り多かった。6回では、指圧の初歩の領域にもふみこめないというかんじがしたが、たのしく行うことができた。

語らいの広場

高齢者にとって関心度の高い問題、先達として考えていくべき問題を語りあえる場として実施した。

期 間 昭和59年6月14日(木)～昭和60年3月30日(出)

会 場 公民館

参加者 16人×7回＝112人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 14	準 備 会	語らいの広場の年間計画	担 当 職 員
6. 29	〃	語らいの広場の実施日について	〃
1. 23	運 営 会 議	対話集会について	〃
1. 28	福生市の昔とこれから	市長との対話集会	
2. 27	日常の健康管理Q & A	高血圧、食事のアドバイス	保 刈 ト ミ 氏 (福生病院婦長)
3. 28	子育てを語ろう	子育てのいま、むかし	市民サークル から
3. 30	反 省 会	今年の活動をふりかえる	

総 括 年間計画が予定通りにすすまなかった。来年度は、コンスタントに開催していきたい。

市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また、文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、“素晴らしいもの”を愛する心をいつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“素晴らしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目 標

定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、映画会と、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公演種目	日 時	会 場	入 場 料 金	発売人数	出 演 者
落語鑑賞会	昭和59年 6月30日(土)	市民会館 小ホール	前売券 400円 当日券 450円	191人	柳 家 八 治 林 家 時 蔵 古今亭志ん橋 入 船 亭 扇 好 古 今 亭 朝 太
ふっさニュー ーイヤーコ ンサート	昭和60年 1月13日(日)	市民会館 大ホール	前売券 指定 2,500円 自由 大人 1,700円 小人 1,000円 当日券 指定 2,800円 自由 大人 2,000円 小人 1,300円	849人	島 田 祐 子 大 友 直 人 新星日本交響楽団

公演種目	日時	会場	入場料金	発売人数	出演者
中村雅俊 コンサート	昭和60年 3月25日(金)	市民会館 大ホール	指定 3,000円	1,178人	中村雅俊

市民名画劇場

上映作品	上映日	上映回数及び入場者			
スターウォーズ	5月26日(出)	午後・夜間	3回	792人	
サバイバルファミリー	7月14日(出)	午後・夜間	2回	186人	
エンドレスラブ	9月27日(出)	午後・夜間	2回	115人	
チャップリンの黄金狂時代	11月10日(出)	午後・夜間	2回	130人	
ガンジー	12月15日(出)	午後・夜間	2回	140人	
泥の河	1月26日(出)	夜間	1回	160人	
オー!ゴッド	3月9日(出)	午後・夜間	2回	88人	

いずれも市民会館小ホール